

MORIOKA YMCA NEWS

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

2013年2月号 宮古ボランティアセンター特集！！



発行人：濱塚有史 編集人：家村知佳 発行所：特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市本町通3-1-1
TEL 019 (623) 1575 e-mail: morioka@ymcajapan.org URL: <http://www.ymcajapan.org/morioka/>

「 感謝 」

今松 桂子

新しい年になったと思っているうちに、もう2月。

皆さん、今日は。そして初めまして。78歳の私がここに書かせていただくなんて、本当に光栄なことです。でも、そんなお婆さんがYMCAとどんな接点があるの?って思う人も多いでしょうね。勿論、直接の関係があるわけではありません。今、高1の孫が小学校の頃、お世話になったのです。その孫を通していつもYMCAを身近に感じ、感激し、そして感動でした。サッカースクールから始まって、アドベンチャー教室、スキー合宿、街頭募金活動などなど。引っ込み思案の孫がYMCAではいつも生き生きしていることが、帰ってきて話すことから分かりました。

事情があって仁王小学校に転校してからは、本町ぶらいむ・たいむのお世話にもなり、彼にとってはどんなに心安らぐ時間を持てたことか。どんな子でも丸ごと受け止めてくれる、存在を否定されない—それがYMCAでした。

総主事さんを始めスタッフの方々は勿論ですが、年若いリーダーの皆さんもよくお世話くださって…と頭が下がる思いでした。

残念なことに、今の学校はすべてが画一化され、教科の成績を上げることにのみ汲々とし、先生達もやたら忙しく、問題を抱える子がいても構っている暇のないのが現状でしょう。子供同士によるいじめ、教師による体罰まで明るみに出（信頼関係を築くことを怠っての体罰は暴力以外の何物でもないはず）、そして相次ぐ子供の自殺。一方では、心を病む教師も増えていると言います。心寒々とする現実です。

しかし、婆さんは希望を捨てません。若いリーダーの方々の中には、教職を目指している人も居られるでしょう。立派な先生でなくていい、YMCAのリーダーの気持ちを忘れない先生になってください。年老いた私の願いです。

私の書きかけの原稿をのぞいた孫が「懐かしいなあ。」と呟いていました。今は、YMCAは彼の故郷なのでしょう。私にまでそのYMCAと関わりを持たせてくれたということで孫にも感謝しなくちゃいけないかもしれませんね。

☆宮古フレンドシップキャンプ in 田沢湖スキー場☆

2013年1月12日(土)～14日(月・祝)に盛岡YMCA 宮古ボランティアセンター主催、宮古フレンドシップキャンプが行われました。このキャンプは三菱商事株式会社の協賛により、宮古の子どもたちが無料で招待されます。昨年度から行われているキャンプで、50名の定員が即うまるほどの人気プログラムです。場所は秋田県仙北市田沢湖スキー場。そして宿泊はプラザホテル山麓荘です。50名の子どもたちと盛岡・大阪・横浜・東京から集まった14名のボランティアリーダー、そしてYMCAスタッフ4名は宮古から4時間かけて現地へと向かいました。その途中からモサモサと雪が降り始め、どんどん宮古とは違う景色へと移り変わっていくのでした。

宮古ではなかなかスキーをする環境や機会がなく、生まれて初めてのスキーの子もたくさんいます。宮古の子どもたちはどの子もまじめで一生涯懸命で、自分の成長1つ1つに喜びと楽しさを感じながら滑っているようでした。ホテルに戻ってからも、「止まれるようになったよ!」「リフト乗れた!」「いっぱい転んだ!」など、スキーでの様子をたくさん聞かせられて、いかに楽しかったかが伝わってきました。子どもたちはみんなスキーのとりこです。

ナイトプログラムでは1日目にゲーム大会と巨大紙風船作り、そして2日目にはみんなで作った巨大紙風船を飛ばしました。全長3メートルを超える紙風船はガスバーナーで空気を熱し飛ばします。気球のようです。思い思いの絵を描いた紙風船は遠く空へ消えていき、子どもたちは歓声を上げながら見送っていました。

こうして宮古の子どもたちとの3日間はあっという間に過ぎてしまいました。しかし、1つ1つの時間に思い出がギュッと詰まった素晴らしいキャンプとなりました。

文責：盛岡YMCA 家村

みんな楽しんでるかい!?突撃インタビュー!!

フレンドシップキャンプに参加してくれた子どもたちに2つの質問をしてみました!

- ①将来の夢は?
- ②このキャンプで1番楽しかったことは?

それでは協力してくれた15名の子どもたちを紹介します♪

あ の 山崎 愛望
①モデル
②雪の中に突っ込んだこと



小松 さくら
①保育士か小学校の先生
②部屋のみんなでトランプとかして遊んだこと



ふうか 島山 楓果
①保育士
②部屋で遊んだこと。ナイトプログラム。雪にダイブしたと。滑ったこと。

ふうな 鳥居 風南
①金持ち!
②急斜面!!



ゆう 濱田 悠
①ケーキ屋さん(チョコケーキを作りたい)
②少し止まれるようになった。



せい か 伊藤 星花
①看護師(病気の人を助けたい)
②初スキーで上手になれたこと



ここ 平井 瑚子
①看護師(おばあちゃんも看護師だったから)
②転んであごをぶつけたこと

らん 山口 蘭
①美容師
②スキーで出来なかったことが出来るようになったこと



わかさ あつき 若狭 亜月
①自衛隊
②スキーでスピードを出し、転ぶこと



まみ りゅうと 眞見 龍朋
①サッカー選手
②スキーの技を覚えたこと



めい 北村 芽生
①バレーボールの選手になってオリンピックに出たい
②坂を下りて止まれるようになった



あや 齋藤 彩
①バスケかサッカーの選手
②ちゃんとハの字で止まれるようになった

れん 佐藤 廉
①地方公務員
②スピードを出して滑ってこと



せな 中村 瀬那
①サッカー選手
②スキーで止まれるようになったこと



じゅうきち 平井 重吉
①消防士
②スキーと「本当にあったJ Tの話」



初スキーの子どもたちもリフトに乗って降りてこられるまでに成長!
←



← キャンプ1日目の集合写真。この日はずっと雪が降っていました。

盛岡YMCA宮古ボランティアセンター 1月報告書

宮古も盛岡同様に厳冬期に入りました。それでも三陸沿岸地域の寒さは盛岡ほどではありませんが、宮古市街地でも最低気温がマイナス5度から9度を記録するようになりました。例年より前倒して寒波が到来しているとの事です。

ボランティアセンターも、毎晩業務終了時には必ず水抜きをしておりますが、それでも外の水道管の蛇口部分が凍結することが多くなり、半日以上水道が使えない事態となりました。このままだと今後の交流プログラムやお祭りでの模擬店出店などの行事に支障が出てしまうため、水道管に電熱線を巻いてもらう工事の依頼をしました。長期でセンターを空けるスキーキャンプ実施前までに何とか工事が終わるようにお願いをしておりますが、キャンプ前日には終了して何とか間に合いました。

キャンプ期間中にも、地元のボランティアの方々や凍結しているかどうか、時々様子を見に来て下さっていたようですが、キャンプから帰ってきてからすぐにセンターの蛇口を回すと、無事に水が出て一安心でした。ボランティアセンターがたくさんの方々に守られているのだと改めて実感しました。本当に感謝です。

YMCA宮古ボランティアセンターでは、年末年始も休むことなく、交流活動を中心とした地域活動を行いました。12月下旬から1月上旬まで滞在された香港のボランティア2名と、多忙な時期にもかかわらず全国よりお集まりいただいた、たくさんのボランティアの方々にも本当に感謝です。

年末のクリスマスの時期には、東京武蔵野多摩ワイズメンズクラブによる、心と体のリラクソプログラムのお手伝いをしました。このプログラムは前回11月に大槌仮設住宅の数か所で行われたものですが、好評につき、同地区の別の仮設住宅で第二弾が開催されました。

今回は12月24日(月)から26日(水)までの日程でしたが、YMCAは25日(火)と26日(水)のお手伝いに行っていました。

先生の指導により、誰でも知っている馴染みのある季節を代表する歌を歌いながら、この一年を振り返って、起こった出来事やイベントのいくつかをキーワードにして、歌の振り付けを行いました。雪が降り足元の悪い中、たくさんの地域の方々にお越しいただき、本当にありがとうございました。



指の体操でウォーミングアップ。脳を活性化するとリラクソスの効果大です。
(大槌仮設住宅)



→ 終了後はボランティアセンターが配られました。
(大槌仮設住宅)



← お食事処です。お餅つきを終えてひと段落。(荷竹仮設住宅)

地元の子どもも飛び入り参加。
(赤前仮設住宅) ↓



ボランティアとスタッフ総動員で雪かき作業です。(宮古教会) →



← 前センター長の池田勝一さんご夫妻も来られました。
(赤前仮設住宅)



← 仮設住宅での雪かき作業です。
(二中仮設住宅)



↑ 元旦は神社の境内で餅つきです。(熊野神社)

← 子どもたちも交代で餅をつきます。
(末広町商店街リアス亭)

年末年始のお正月の三が日には、地域と商店街でお餅つきによる交流プログラムを行いました。

- 12月31日(月) 赤前仮設住宅 年忘れお餅つき会
 - 1月1日(火) 熊野神社 新春お餅つき会
 - 1月2日(水) 荷竹仮設住宅 新春お餅つき会
 - 1月3日(木) 子ども会 新春お餅つき at リアス亭
- 大晦日から1月2日(水)までは、前センター長の池田勝一さんご夫妻にもお越しいただき、とても盛り上がった会となりました。

1月12日(土)から14日(月)までフレンドシップスキーキャンプが行われましたが、その最終日は、いわゆる爆弾低気圧による大雪で、宮古市街も積雪20cmを記録しました。その翌日、キャンプ事後処理の作業をしていたスタッフとボランティアの皆さんは、急きょ一部予定を変更して、雪かきの作業をしました。まずは教会とセンターの敷地内から始めると、近隣の個人宅や仮設住宅からも雪かきの依頼があり、その日は夕方まで皆で協力して雪かきの作業をしました。

これから本格的な降雪の時期になりますので、これから何度となく雪かきの作業をすることになるかと思えます。

これから本番を迎える冬対策として、雪かきにとどまらず、床のウレタンマット敷きや、窓ガラスの断熱シート貼りなど、お一人暮らしのご高齢の世帯を中心に、地域で急務となる作業です。

近隣の仮設住宅を中心に一軒ずつ訪問して、ニーズに応じていきたいと思えます。

宮古ボランティアセンター長 大谷

仮設住宅での断熱シート張り。窓ガラスの大きさに合わせて切ります。
(寒さ対策)



← 霧吹きなどで窓ガラスを濡らし、断熱シートを貼りつけます。

宮古での活動実績
(1月末日のべ人数)

☆受益者数	53
☆ボランティア数	67
18,	22
22	3
人	人

1月アドベンチャー 「ぼくもあなたもスキーヤー♪」

1月20日(日)、いよいよ2013年もアドベンチャーがスタートしました！まずは、八幡平リゾートスキー場へ日帰りです。生まれて初めてのスキーで少し不安げな子もいれば、がらがら滑るぜー☆と気合いの入った子もいました。それぞれの目標は違えど、18名の子どもたちと5名のリーダー・スタッフは充実した1日を過ごしました。なんといっても、初心者の子たちの頑張りは素晴らしかったです！半日でリフトに乗り、斜面を滑ってこれるようになりました！スキー以外にも、グループの子と仲良くなってふざけ合ったり騒ぎまわったり、とても楽しい1日でした。楽しい時間はすぐに終わる～。



1月27日(日)、2回目の「日帰りスキー」が行われました。今回は18名の子どもたちと6名のリーダー・スタッフで行ってきました。1回目の日帰りスキーに参加してどっぷりスキーの魅力にハマった子どもたちが再び来てくれて、半数以上は連続参加です。1回目に初めてスキーをした子や初めてリフトに乗ったような子が、余裕な表情で滑り降りていきます。ターンもお手のもの☆帰りのバスではおやつ交換になり、「〇〇までー！」と叫びながら前の席から後ろの席まで、たくさんの人のお手を渡りおやつが運ばれて行くのでした。



文責：盛岡YMCA 家村 知佳

獅童♡ミニー ☆ HAPPY WEDDING ☆



2月2日(土)、盛岡YMCAスタッフの獅童と元ボランティアリーダーのミニーの結婚式が行われました！たくさんの人に祝福され、とても幸せそうな2人。末永くお幸せに♡

～表紙の写真より～



1月12日～14日に行われた宮古フレンドシップキャンプでの集合写真。田沢湖スキー場ゲレンデをバックにみんなの笑顔が輝きます。たくさん滑り、どの子も満足した表情です。

(家村)



こぼれ種25

「雪に悩まされながら思うこと(2)」

日本基督教団内丸教会牧師(元日本YMCA同盟 主事)
中原 真澄

先月号に続き、盛岡の3回目の冬に考えさせられている事を紹介したいと思います。それは、自然を前にした人間の「謙虚」さです。前号に記したように、関東以南にしか住んだことのない私は、初めて雪が降った日に車を出そうとして、車に積もったり凍り付いた雪を払い、車庫の前の雪を掻き出し…20分以上も時間を取られて、面倒～！と感じたことでした。走行時間も、雪のない時より2割は多目に見る習慣が未だ身につかず、ツイ遅れてしまいます。歩くのも同様で、それなりの靴は勿論＜歩き方＞も大切です。生活の様々な営みにおいて(もともと盛岡はマダマシで、秋田など雪国に比べたら…と聞きます)気温や降雪・積雪状況に常に気を配ることが求められます。自然の前では人間の自己都合など無効で、謙虚に処しなければどうにもなりません。

15年ほど前、東京の島嶼部(東京都に属する島々だけの連合組織)が開催した青少年指導者研修に講師として赴いた時です、台風のために参加を中止した島が幾つかありました。それを当たり前と受け流す主催の方を見て、「そういうことか」と感動した記憶があります。自然が許す範囲内で、自分たちの最善の努力をなす…それが染み付いた姿勢でした。

YMCAのプログラムも同じだなあ～と思うのです。キャンプはじめ自然体験を伝統的に大切にしてきたのは何故か…決して人間の思い通りにはなってくれない自然のただ中で、許され・共に生かされている自分を見いだしていく…そんな感動を味わってきたからでしょう。それは多分、自然を「征服」したと錯覚しがちな現代社会で、私たちが見失っているとても大切な姿勢であり、感情ではないでしょうか。

あなたの天を、あなたの指の業をわたしは仰ぎます。月も、星も、あなたが配置なさったもの。そのあなたが御心に留めてくださるとは、人間は何ものなのでしょう。人の子は何ものなのでしょう、あなたが顧みてくださるとは。(詩8篇4～5節)

2月の予定

★2月16日(土)～17日(日)
2月アドベンチャー
雪まつり&スキーキャンプ
(於：秋田県仙北市田沢湖スキー場)

★2月24日(日) 13時～16時
サンデースクール
「万華鏡作り」
(於：盛岡YMCA本町センター)

感謝

2013年2月1日現在

順不同・敬称略

●東日本大震災被災地支援募金 献品

茨城YMCA、松尾聡子、山田京子、藤井辰夫、横浜西YMCA、日本キリスト教団つきみの教会、日本キリスト教団浦安教会、日本キリスト教団宮古教会、長谷川牧子、佐々木京子、名古屋恒彦、阿部毛糸子、関スミ子、スワン美容室、佐藤ハナ子、吉田精肉店、大森桂子、坂下信二、日本基督教団池田五月山教会、立教大学YMCA、大塚友美、清泉YMCA、泉北ワイズ、西宮ワイズ、日本基督教団林間つきみ野教会、日本基督教団番町教会、木下悦子、東矢高明、加藤様、藤原様、柴家様、北村千賀、竹内忠美、堺YMCAリーダーOB会、社会福祉法人イエス団友愛幼稚園、齋藤稜太、鬼柳忠彦、宇土澤光里、西村隆太、広瀬満和、広瀬香織、堺YMCA

●維持会費

角谷晋次、角谷千代子、竹内一真、千葉代子、花田瞳、小畑孝子、吉崎陽、池田二郎、今松桂子、下坊和幸、熊谷力實、及川茂夫、及川恵、大関靖二、濱塚秋二、田村治之、工藤泰、重石桂司、伊藤克見、伊藤喜代江、川守田浩、工藤直子、名古屋恒彦、水田賢次、千葉代子、阿部靖、北田アユ子、今野聖子、今野健男、清水治彦、岩崎スエ、宮崎幸雄、菊池崇江、伊藤眞一郎、南原良哉、小林茂元、朴正浩、長澤博真、長谷川精一、飯島隆輔、井上修三、井上優子、井上浩太郎、松尾聡子、石渡隆司、古澤伸、西村隆太、鳥居飛那、大山智輝、安藤大貴、土田悠太、川崎真尋、川崎小雪、松岡英樹、田中颯、遠藤幸誠、江口若菜、遠藤マキ子、豊田健太郎、直島カルメン、杉本凜、朝日拓馬

●寄付金

角谷晋次、花田瞳、小畑孝子、吉崎陽、今松桂子、下坊和幸、熊谷力實、及川茂夫、及川恵、伊藤克見、伊藤喜代江、川守田浩、水田賢次、今野聖子、今野健男、伊藤眞一郎、朴正浩、石渡隆司、東透、松岡英樹、遠藤マキ子、菊池弘生